

令和6年度
第3回大根中学校区学校整備懇話会
意見交換振り返り資料

令和6年12月18日

第2回懇話会の意見交換まとめ

テーマ1：子どもの将来を見据え、「人との関わり」の観点から、どのような学校であるべきか。

新たな学びに期待すること

一人ひとりにあわせた学び

急がずにじっくり子どもを育てることができる。

新たな学びに対応した施設の必要性

様々なスタイルの学習を展開するための受け皿となる施設が必要。

園小中一貫の学び

こども園と交流があると、園児達が事前に児童や教職員と接することができるため安心して進学でき、学びの連続性も生まれる。

新たな学びに関して気になること

不登校への対応

不登校の子どもが個人で課題に取り組めるスペースが必要。

過度な班活動が不登校につながった事例もある。子ども達が取り残されることのないよう、適切な教員数を確保する必要がある。

すぐに成果が出るものではないため、事前に保護者の理解が得られないと結局子どもが塾に通わねばならなくなるおそれがある。

協働的な学びを進めるほど、最終的に塾でカバーしなければならなくなるおそれがある。

生じ得るデメリット

義務教育学校に期待すること

他者との関わり

一定規模の子どもがいる環境下で学ぶことで、学力や他者に関わる力を育ててほしい。

学級数が少なく子ども同士が馴れ合ってしまうと、将来的に大人数と関わらなければならないときに多大な苦勞を強いられることになる。

異学年交流が盛んになることはよいこと。下級生は上級生をみて成長でき、上級生は下級生に物事を教えることで成長につながる。

子どもの成長・発達

中学校への意向がスムーズになり、小1プロブレムや中1ギャップの解消につながる。

中1ギャップを解消できることのメリットは大きい。

小学校と中学校では、教職員の子どもへの見方が大きく違う。義務教育学校になることにより、9年間の発達を適切にみられる。

教職員や保護者が何を教えなくても、下級生は上級生に勝手にあこがれてくれる。

中学生は結構自立しているため、教職員が必要以上にマネジメントしなくても中学生を筆頭に色々なことができるかもしれない。

教職員によるマネジメント

教職員によるマネジメント

教職員の負担が増えてしまうのではないかと。

子どもが身につけるべきルールや教職員が教えねばならないことの最低限が不明瞭になってしまうのでは。

小学校の教職員は中学生に対してどのような指導をすればよいのか、その逆にも不安がある。

中学生に対する生活指導の中で「中学生らしくしなさい」と言えなくなってしまう。

情報発信

市から発信している情報が地域住民に正しく伝わっていない。「いつ広畑小学校がなくなるのか」という意見が多く見受けられる。

義務教育学校に関して気になること

他者との関わり

子ども同士の間で摩擦が生じた場合、それが9年間続くおそれがある。

従来なら中学進学時に異なる小学校出身の子ども同士の出会いがあるが、その機会が失われてしまう。

児童と生徒がどう関われるか、具体的に考えねばならない。

適正な学級数

同学年交流か異学年交流か、どのような集団であるかを捉えるべき。障害のある子ども達についても考えるべき。

学校施設の建て方

施設一体型の場合は様々な効果が期待できるが、施設分離型の場合は現状との違いがわからない。

施設分離型の場合は連続性が感じられないため、施設一体型で整備されるのが好ましい。

第2回懇話会の意見交換まとめ

テーマ2：大根中学校校区に新たな学校施設を建てる時、子どもにとってどこがよいか。

大根小学校・中学校敷地に建てる場合に期待すること

大根小学校・中学校敷地に建てる場合に気になること

余裕をもった施設のづくり

大根小学校・中学校敷地は広く、色々な可能性がある。

大根小学校・中学校敷地の方が利便性も高く、広いためよい。学校行事等のことも考えると敷地は広い方がよい。

一度建てたら40～50年使い続ける学校になるため、可能な限り先のことを想定して余裕のある施設にしてほしい。

同じ場所に10年近く子ども達が通い続けるのだから、余裕のある施設にしてほしい。

諸室

「食」も学びにとって重要な要素である。子ども達も教職員も一堂に会して食事ができるような空間を潤沢に備えてほしい。

収納も含め、教室を広くつくってほしい。

廊下に教材教具等を保管できる仕組みをつくってほしい。

図書室や体育館が2つずつあるに越したことはない。

その他

体育館は大きめにつくって分割するか、用途別に様々な形態でつくるのか。暑さ・寒さ対策や、校庭を人口芝にするのか砂地にするのか等も検討し、子ども達が遊びやすい施設をつくる必要がある。

公共施設の複合化・共用化

異世代交流に期待し、公共施設と一体的にたてられるとよりよい。

複合化・共用化も見据え、イオンのように広い駐車場を最初から計画しておくべき。後付けで考えると大変。

広畑小学校の処遇

広畑小学校の避難所としての機能はどうするのか。体育館だけでも残すのか代替を確保するのか。

広畑小学校敷地に何もかもがなくなってしまうのは、地域感情として複雑。

災害への対応

通学支援の検討

夏は熱中症にかかるリスクもあるため、必ずしも徒歩通学が適切だとは思えない。

学校までの距離が遠くなればなるほど事故等のリスクも上がると思う。

スクールバスの導入

南平橋方面の子ども達については、コミュニティバスの活用等の必要があるのではないか。

保護者としては、無理をさせてまで子どもに学校まで歩かせたくない。学校までの距離に応じてスクールバスの導入も視野にいれてほしい。

スクールバスの導入の検討はマストだと思う。

スクールバスを導入する場合、日中はコミュニティバスとして運行する等、通学時間以外の使い方も検討する必要がある。

その他

必要に応じて学区の再編も見据えるべき。

給食の提供を自校方式にするかセンター方式にするか検討が必要。

特に南平地区に住む子どもや保護者の意向に配慮し、同意を得ながら検討を進めてほしい。

特別支援学級に通う子ども達への配慮も必要。

通学時の送迎

学校から遠いからという理由で保護者に送迎してもらうことを咎める教員や同級生がいると聞く。そのようなことがないような環境がづくりが必要では。

送迎を認めるかどうかのルールは不要ではないか。しかし、送迎が多くなると立ち行かなくなるのも事実である。

自家用車で子どもを送る家庭が多くなると、ロビーが車であふれてしまうのではないか。

送迎車や緊急車両等の動線の確保も必要。

子ども達が周辺環境から学習する部分もある。災害時のこと等、広い視野で考える必要がある。

住宅地に近接しているため、騒音等に関する配慮が必要。

敷地周辺の歩道が狭いため、拡幅するか学校の敷地内に歩道を引き込んでしまっただけではどうか。

周辺環境